

『 裏磐梯の絶滅危惧種 』

【目的】

昨年調査した絶滅危惧の植物の同じ場所の自生地を変化があったかを調査する。

【結果】

下記に示す調査対象種（地点）については、前年に較べて大きな変化はなかった
只、オキナグサは順調に生育している様に思われる。又、近くにあったヒメサユリ数株
がすべて盗掘にあっていた。

【考察】

生育にマイナスの要因と思われるもの

- 1) 自然の遷移による
- 2) 園芸の為の採取
- 3) 河川の改修（コンクリート化）
- 4) 湿原の開発
- 5) 森林の伐採
- 6) 気候の変化

裏磐梯では主なる原因は1)、2)、5)、6)などが考えられる。

【対策】

- (1) 民間の自然ガイドなどを監視員に委嘱し、巡視の協力をしてもらう。
- (2) 当該地点については特定の監視員等のみが把握し、一般への公表は控える
- (3) 子供達に「生物多様性の大切さ」を教えるなどの早急なる啓蒙活動が必要と思われる。

【概要】

(1) 実施期日

平成23年5月19日

平成23年6月10日

平成23年6月12日

平成23年6月16日

(2) 調査者

友坂 豊 （裏磐梯エコガイドの会）

(3) 調査項目および結果

p 2～4 に示す